

こころのしくみの理解

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会から求められる医療人の育成のために、心理学の知見と医療現場で求められる知識や考え方を理解することを目指す。そのために、人間についての基本的理解、現場に役立つ実践的な心理学の習得、患者理解のための心理学及び歯科患者の心理などについて理解できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバス説明 オリエンテーション 一般心理学との違い等
2	生理心理学と大脳生理
3	こころと身体の世界
4	こころと行動の形成
5	こころと行動の発達
6	こころの個性と深層
7	こころの適応と障がい
8	こころと身体の臨床心理
9	対人援助者と患者の人間関係
10	対人援助に役立つ心理テスト
11	医療に役立つ心理療法
12	被援助者の心理メカニズム
13	ストレスとコーピング
14	こころのしくみ
15	こころのしくみ(進化心理学)

【履修上の注意事項】

本科目は再試験を実施しない。したがって、日頃からの出席とノートテークをしっかりとしないと単位取得は難しい。さらに事前・事後の学習を怠らないこと。

【評価方法】

定期試験：100点で評価する

【テキスト】

未使用

【参考文献】

各單元ごとに紹介していく

発達と老化の理解

担当教員 吉岡 久美

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

ヒトは時間の経過とともに変化していく。
発達と老化の理解では、生殖機能から受精、その後の細胞の変化と成長過程を知り、成長と老化について、その様子を解剖生理学的に説明できることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	受精と胎児の発生、成長を知る
2	出生とそこに生じる危険による影響を理解する
3	人間の発達について、生涯発達の視点と発達の可塑性を知る
4	乳児期の発達と発達課題を理解する
5	幼児期の発達と発達課題を理解する
6	学童期から思春期の発達と発達課題を理解する
7	青年期・成人期から更年期の発達と発達課題を理解する
8	老年期とは何か、法律や制度も含めて理解する
9	老化のメカニズム（身体におこる変化）を知る
10	老年期の発達課題と適応理論を理解する
11	老化に伴う心肺機能の変化と日常生活への影響を理解する
12	老化に伴う筋・骨格系、腎・肝機能の変化と日常生活への影響を理解する
13	老化と感覚器系の変化と影響を理解する
14	老化に伴って起こりやすい疾患と生活上の影響を理解する
15	細胞の死と身体の変化を知る

【履修上の注意事項】

事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでくること。
事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおすこと。

【評価方法】

筆記試験100%で評価する。

【テキスト】

人体の構造と機能「解剖生理学」 メディカ出版

【参考文献】

解剖生理学 医学書院
こころとからだのしくみ 「発達と老化の理解」 メヂカルフレンド社、中央法規

こころとからだのしくみ I

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

生活支援に必要な介護技術の根拠となる人体の構造や機能および生活援助サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

【授業の展開計画】

【全体の内容の概要】医学・心理的知識をもとに、身じたく・移動・食事・排泄といった生活に欠かすことのできない分野に関連したこころとからだのしくみについて理解する。

【到達目標】身体構造・心理的側面を理解し、安全・安楽な身じたく・移動・食事・排泄のしくみが理解でき、発達段階をもとに障害や認知症などの心身の状況に応じた介護のアセスメント能力を身につける。

週	授 業 の 内 容
1	人体の構造と機能、障害や認知症を理解し、生活機能低下における生活行動への影響を理解する。
2	身じたくに関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
3	身体や認知機能低下・障害が及ぼす整容行動への影響、生活場面での変化の気づきと連携を学ぶ。
4	身じたくに関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
5	移動に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
6	身体や認知機能低下・障害が及ぼす移動への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
7	移動に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
8	食事に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
9	食べることに関連したこころとからだのしくみを理解する。
10	身体や認知機能低下・障害が及ぼす食事への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
11	食事に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
12	排泄に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
13	身体や認知機能低下・障害が及ぼす排泄への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
14	排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
15	身じたく・移動・食事・排泄、認知症状の理解と心理的変化の理解を統合した支援の視点を学ぶ。

【履修上の注意事項】

学則の出席規定を遵守すること。出席不足の学生は評価対象としない。

演習等をおりまぜながら授業展開するため、積極的に取り組み、課題提出期限を守ること。

期限を過ぎた提出物は評価対象としない。

事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでもらうこと。

事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、課題に取り組むこと。

【評価方法】

筆記試験 80%

演習参加状況、課題提出 20%

【テキスト】

メジカルフレンド社 こころとからだのしくみ

【参考文献】

中央法規出版 こころとからだのしくみ

こころとからだのしくみⅡ

担当教員 吉岡 久美、石本 淳也、小阪 勝己

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

【授業の展開計画】

1. 人体の構造と機能の基本を知り、障害や認知症を理解し、さまざまな生活機能低下における生活行動への影響を理解する。
2. 入浴に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響
3. 身体や認知機能低下・障害が及ぼす入浴行動への影響と、生活場面における変化の気づきと連携
4. 入浴に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）
5. 清潔に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響
6. 身体や認知機能低下・障害が及ぼす清潔への影響と、生活場面における変化の気づきと連携
7. 清潔に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）
8. 睡眠に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響
9. 身体や認知機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響と、生活場面での気づきと連携
10. 睡眠に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）
11. 終末期とはなにかを、身体的変化と法的な死について理解する。
12. 死をむかえるまでのプロセスとこころの変化
13. ターミナルケアにおける介護の役割と家族支援
14. グリーフケアの理解
15. まとめ（生活に欠かせない行動に影響する身体機能低下や心理的变化、障害、認知症を含めた高齢者の特徴について振り返る。また、誰もが迎える死についての死生観を考える。）

【履修上の注意事項】

事前学習として、講義で示している単元のテキストを読むこと。
事後学習では、講義中にとったノートをもとめなおし、課題に取り組むこと。
授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。
積極的に参加し、自らの考えを伝え、支援の方向性を見出すこと。

【評価方法】

原則として筆記試験（60%）、積極性及び小レポート（40%）を評価の対象とする。

【テキスト】

最新介護福祉全書 「こころとからだのしくみ」 メヂカルフレンド社

【参考文献】

介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ」中央法規

感覚・知覚の行動心理

担当教員 山住 賢司

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

我々人間は感覚・知覚を通じて外界の情報を得ている。感覚や知覚の働きがなければ、自己の存在を含め、どんな存在も認識することは出来ないだろう。心理学の分野では感覚・知覚の研究は古くから関心がもたれ、行動の科学としての心理学の実験テーマとして研究されてきた。本講義では、心のはたらきとしての感覚・知覚についての基礎的な知識や心理学における研究法などについて取り上げ、それらを理解し説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	感覚・知覚とは
2	感覚・知覚心理学の歴史と方法論
3	精神物理学的測定法と刺激閾・弁別閾
4	視覚：視覚システムと基礎機能
5	視覚：明るさ・色の知覚
6	視覚：形の知覚
7	視覚：3次元空間の知覚
8	視覚：運動の知覚
9	聴覚：聴覚系の機能と構造
10	聴覚：聴覚の知覚的性質
11	聴覚：音声の知覚
12	聴覚：音楽の知覚・認知
13	身体感覚
14	味覚と嗅覚
15	多感覚相互作用

【履修上の注意事項】

講義に加え簡単なデモンストレーションも行う予定である。
 欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。
 事前学習として各回の内容について参考文献などを参照しておくこと。
 また講義終了後に、各回の配布資料の内容を復習すること。

【評価方法】

定期試験の得点100%で成績を評価する。
 再試験は実施しない。

【テキスト】

使用せず、講義中に随時資料を配布する。

【参考文献】

「朝倉心理学講座6 感覚知覚心理学」 菊地正（編） 朝倉書店 2008
 「知覚心理学 一心の入り口を科学する」 北岡明佳（編著） ミネルヴァ書房 2011

学習と人間行動

担当教員 山住 賢司

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間行動において学習が果たす役割は大きい。学習という過程なしに過ごす日々は皆無といって良いだろう。授業や本を読んで学ぶ知識の他にも、日常生活の様々な場面に学習は関与している。本講義では学習の分野における諸現象を学び、学習心理学の基礎的な知識を理解し説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「学習」について
2	馴化と鋭敏化
3	古典的条件づけの基本的特徴
4	古典的条件づけに影響を及ぼす諸要因
5	複雑な古典的条件づけ
6	古典的条件づけにおける信号機能
7	古典的条件づけで学習される内容とその発現システム
8	オペラント条件づけの基礎
9	オペラント条件づけにおける強化・消去と罰
10	オペラント条件づけの強化スケジュール
11	オペラント条件づけにおける弁別
12	オペラント条件づけにおける刺激般化
13	概念学習
14	観察学習・問題解決
15	記憶と学習

【履修上の注意事項】

欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。
 テキストは毎回必ず持参すること。
 事前学習として各回の内容についてテキストの該当部分を確認しておくこと。
 また講義終了後に、各回の配布資料の内容をテキストで確認し復習すること。

【評価方法】

定期試験の得点100%で成績を評価する。
 再試験は実施しない。

【テキスト】

「コンパクト新心理学ライブラリ2 学習の心理－行動のメカニズムを探る－ 実森正子・中島定彦（著）サイエンス社 2000

【参考文献】

「新心理学ライブラリ6 学習心理学への招待[改訂版] ー学習・記憶のしくみを探るー 篠原彰一（著）サイエンス社 2008

認知と人間行動

担当教員 山住 賢司

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

人間が外界の情報を取り扱う過程を「認知」と呼ぶ。本講義では、広い意味での情報处理的アプローチにより認知系の働きを理解する認知心理学について学んでゆく。人間のこころの働きの中でも重要な役割をしめる記憶や思考・推論など複雑な過程が、認知心理学によりどのように説明されるのかを理解し説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「認知心理学」について
2	記憶の区分
3	記憶過程の説明モデル
4	忘却と検索
5	概念と言語
6	意味記憶とエピソード記憶
7	知識の表象
8	イメージと空間の情報処理
9	認知の制御過程
10	文章の理解
11	文章の記憶
12	推理
13	問題解決
14	意思決定
15	日常世界の記憶と認知

【履修上の注意事項】

欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。
 テキストは毎回必ず持参すること。
 事前学習として各回の内容についてテキストの該当部分を確認しておくこと。
 また講義終了後に、各回の配布資料の内容をテキストで確認し復習すること。

【評価方法】

定期試験の得点100%で成績を評価する。
 再試験は実施しない。

【テキスト】

「グラフィック 認知心理学」 森敏昭・井上毅・松井孝雄（著） サイエンス社 2000

【参考文献】

「認知心理学ワークショップ 実験で学ぶ基礎知識」 西本武彦・林静夫（編） 早稲田大学出版部 2006

発達心理学Ⅱ

担当教員 水間 宗幸

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

乳幼児期以降、特に思春期・青年期における変化を、生涯発達の視点から理解することができる。また生活における社会的変化に沿って、それぞれのライフステージの課題を理解し、特に発達障害の理解と支援を含めた生涯発達支援を行なう上での必要な考え方を習得する一方で、発達障害を中心とした発達上の課題を抱えた人たちの発達の様相を理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	乳幼児期（1）世界を知りはじめる
2	乳幼児期（2）人との関係のはじまり
3	幼児期（1）ことばの獲得 イメージとことばの世界
4	乳幼児期（2）自己の育ちと他者との関係性の発達
5	児童期（1）考える力の発達 思考の深まり
6	児童期（2）友人とのかかわりと社会性の発達
7	発達障害と社会性
8	子ども虐待と子どもの新しい問題
9	青年期（1）自分らしさへの気づき
10	青年期（2）自己の理解と他者
11	成人期 関係性ととまどいと成熟
12	老年期 人生の振り返り
13	文化と発達
14	教育と発達
15	まとめと考察

【履修上の注意事項】

次回内容の教科書を事前に読み込んでおくこと

【評価方法】

総合的な学びと理解を問う筆記試験により評価を行う。

【テキスト】

いちばんはじめに読む心理学の本3 「発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか」
藤村宣之編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜、紹介していく。

健康相談論

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

児童生徒の心の健康問題が深刻化し、保健室でも心身両面の対応が養護教諭の重要な職務として位置づけられていることを理解する。また養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした相談活動としての「健康相談」についての理論と方法について理解し、具体的に子どもの状態のとらえ方と対応について説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	児童生徒の心身の健康問題の現状と背景/健康相談の基本的理解
2	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談
3	健康相談と健康相談活動（学校保健安全法との関連）
4	健康相談に関連する諸理論
5	健康相談のプロセス
6	ヘルスアセスメントについて
7	健康相談における子ども理解の方法（演習含む）
8	健康相談における心理的理解
9	健康相談における連携
10	諸問題の捉え方とかかわり方
11	諸問題への具体的な対応について（事例研究の目的）
12	事例から相談支援を具体的に学ぶ① 疾病を伴う事例
13	事例から相談支援を具体的に学ぶ② 非社会的行動、反社会的行動、生活上の課題を持つ事例
14	保健室登校と不登校の捉え方と対応
15	健康相談における記録、力量形成・研究・研修

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

【評価方法】

レポート30%、まとめのテスト70%として評価する

【テキスト】

養護教諭の行なう健康相談 東山書房

【参考文献】

病態生理学 I

担当教員 新任教員、樋口 マキエ、大河原 進

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学 I では、解剖生理学と生理学で学んだ人体の正常な仕組みをきちんと理解していることを前提として、疾病の成り立ちを基本的な機序によって整理し、その結果引き起こされる組織や臓器の変化における正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成り立ちを理解するための基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	病理学入門、代謝障害（1）細胞の障害、物質沈着	（大河原）
2	代謝障害（2）脂質代謝、タンパク質代謝、糖質代謝、その他	（掃本）
3	循環障害（1）局所性の循環障害	（大河原）
4	循環障害（2）全身性の循環障害	（大河原）
5	腫瘍（1）腫瘍の定義と分類、発生原因	（大河原）
6	腫瘍（2）腫瘍の発生病理、転移と進行度	（大河原）
7	腫瘍（3）腫瘍の診断	（大河原）
8	腫瘍（4）腫瘍の治療	（大河原）
9	腫瘍（5）腫瘍の診断と治療（化学療法）	（樋口）
10	炎症と免疫（1）炎症、免疫	（掃本）
11	炎症と免疫（2）免疫・アレルギーと自己免疫疾患、膠原病	（掃本）
12	先天異常（1）先天異常、遺伝子異常、遺伝性疾患	（掃本）
13	先天異常（2）染色体異常、胎児の障害、診断	（掃本）
14	加齢、老化と機能低下	（掃本）
15	遺伝要因と環境要因からみた疾患の成り立ち	（掃本）

【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくる。復習も必ず行うこと。

【評価方法】

筆記試験で評価する。筆記試験60点以上を合格とする。試験100%。

【テキスト】

（系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [1]「病理学」、大橋健一ほか編、医学書院

【参考文献】

1. 新クイックマスター「病理学」、堤寛監修、医学芸術社
2. 図解ワンポイントシリーズ3、「病理学 疾病のなりたちと回復の促進」、岡田英吉、医学芸術社

環境衛生学

担当教員 星野 輝彦

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境因子と人（および生物）の相互関係を理解し、生活環境の安全の確保と健康の維持・増進の重要性を認識できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境衛生学概論：環境衛生の歴史
2	環境因子と人体：環境物質の体内動態と毒性、安全の基準
3	環境化学：生態系と物質動態
4	地球環境の化学：オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨
5	科学的因子と健康：有害化学物質（重金属、農薬、工業薬品）の健康への影響
6	科学的因子と健康：外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）の健康への影響
7	生物的因子：病原微生物の影響
8	物理的因子と健康：放射線の影響
9	物理的因子と健康：温熱、圧力、騒音などの影響
10	大気環境と健康：大気汚染の状況と対策
11	水環境と健康：水に由来する健康被害、水質汚濁状況と対策
12	食品環境と健康：食品汚染と食中毒
13	生活環境と健康：室内の汚染物質
14	生活環境と健康：廃棄物の分類と処理方法
15	環境影響評価と対策：環境アセスメント

【履修上の注意事項】

講義予定の課題を調べること。受講後、復習しておくこと。
出欠は出席カードを用います。出席カードの裏に講義の感想を書くこと。

【評価方法】

試験90%、レポート10%

【テキスト】

各講義の際に資料を配布する。

【参考文献】

「環境衛生科学」大沢基保、内海英雄（南江堂）
「環境衛生の科学」篠田純男、那須正夫、黒木広明、三好伸一（三共出版）

公衆衛生学

担当教員 新任教員

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目は、健康や健康生活を営むための制度に関連する科目である。日本国憲法第25条生存権の項でも謳われているように、公衆衛生自体は社会制度の中核的な位置を占める仕組みであり、各人が健康に関連する種々の要因を理解し、日常の健康生活向上に役立てるようにする。また養護教諭資格に必要な基礎的知識や技術の能力を習得し、適切な学校保健指導ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 健康と公衆衛生の概念
2	公衆衛生・社会医学の発展
3	保健統計
4	疫学
5	疾病予防と健康管理
6	主な疾病の予防
7	環境保健
8	地域保健と保健行政
9	母子保健
10	学校保健
11	産業保険
12	高齢者の保健医療と介護保険制度
13	精神保健
14	国際保健医療
15	保健医療福祉の制度と法規、まとめ

【履修上の注意事項】

公衆衛生の内容は、かなり広い上に、現実的な健康問題とも関係しているため、学習に当たっては、新聞やニュースで報じられた健康問題にも注意を払い、公衆衛生や社会にとってどのような位置づけになるのか、といった問題関心を常に持つように心がけ、必ずシラバスに沿って内容の事前および事後学習を行うこと。

【評価方法】

ミニテストを実施するのできちんと提出すること。ミニテスト20%、期末試験を80%で評価する。

【テキスト】

「よくわかる専門基礎講座公衆衛生」松木秀昭編、金原出版株式会社、を使用する。

【参考文献】

参考文献については適宜紹介する。また、必要に応じてプリント資料を配付する。

精神保健 I

担当教員 茶屋道 拓哉、吉光 清

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について説明できるようになる。
- 2 精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について基礎的知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健の概要
2	精神保健の歴史と現代における意義・課題
3	社会構造の変化と新しい健康観
4	ライフサイクルと精神の健康（出生前～思春期）
5	ライフサイクルと精神の健康（青年期～老年期）
6	ストレスと精神の健康
7	生活習慣と精神の健康
8	精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害
9	アルコール関連問題と精神保健
10	うつ病と自殺防止対策
11	現代社会を取り巻く諸相と精神保健（長寿・認知症・少子化を巡って）
12	精神の健康に関する心的態度
13	精神保健に関する予防の概念と対象
14	精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体などの役割と連携
15	精神保健に関する専門職種

【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

【評価方法】

- 1 試験による評価（70%）
- 2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健学（第6版）』へるす出版，2017年

【参考文献】

『精神保健医療福祉白書2016年版』精神保健医療福祉白書編集委員会編，中央法規

精神保健Ⅱ

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- ・現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について説明できるようになる。
- ・精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について説明できるようになる。
- ・国際的視野に立った精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について基礎的知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健活動の実際Ⅰ（家庭における精神保健と家族支援）
2	精神保健活動の実際Ⅱ（学校における精神保健／いじめ・不登校・教員の精神保健）
3	精神保健活動の実際Ⅲ（学校コミュニティ／スクールソーシャルワーク）
4	精神保健活動の実際Ⅳ（職場におけるメンタルヘルス：EAP・復職支援／関連法規）
5	精神保健活動の実際Ⅴ（地域精神保健活動とネットワーク・多職種連携）
6	地域精神保健と地域保健Ⅰ（災害被災者・犯罪被害者・ニートや貧困など社会的排除）
7	地域精神保健と地域保健Ⅱ（地域移行・地域定着支援／社会的ひきこもり）
8	地域精神保健と地域保健Ⅲ（アルコール関連問題・薬物乱用／依存対策）
9	地域精神保健と地域保健Ⅳ（認知症や介護者のバーンアウト・ターミナルケア）
10	地域精神保健と地域保健Ⅴ（性同一性障害・発達障害・多文化と精神保健）
11	精神保健に関する社会問題と関連法規の理解Ⅰ（うつ病と自殺／自殺対策基本法）
12	精神保健に関する社会問題と関連法規の理解Ⅱ（地域保健法／母子保健法）
13	精神保健の現代的課題（偏見と差別／スティグマ／逸脱／コンフリクト）
14	地域精神保健に関する諸活動（関係法規・資源開発・ネットワーク・人材育成）
15	諸外国における精神保健（WHOの活動・アメリカ・イタリア・イギリス・フランス）

【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。
- 4 本講義における再試は実施しない。

【評価方法】

- 1 試験による評価（70%）
- 2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健学（第6版）』へるす出版，2017年

【参考文献】

『精神保健医療福祉白書2016年版』精神保健医療福祉白書編集委員会編，中央法規
野村総一郎・樋口輝彦【監修】『こころの医学辞典』講談社 2003 その他、講義時に適宜資料配布。

精神医学 I

担当教員 肥後 成美

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

脳の基本構造を把握し、個々の部位の総合作用として我々の精神が発動しているということを学ぶ。脳の構造と機能を結びつけることで、精神障害の病態像、治療法などに対するより深い理解力を育むことができ、そのことが障害を持つ人たちと接する医療者としての適格な人間形成にも繋がると考える。特定の教科書に沿った説明はせず、講義内容・配布資料を積み重ねることで一冊の新しい教科書（ダイジェスト版）が完成するような内容を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神医学の神経科学的基礎（脳の巨視的構造）
2	精神医学の神経科学的基礎（脳機能に対する概念の歴史の変遷）
3	精神医学の神経科学的基礎（神経細胞の形態学的、生理学的特徴）
4	精神医学の神経科学的基礎（大脳皮質の働き）
5	精神医学の神経科学的基礎（前頭葉、分離脳）
6	精神医学総論（精神医学の歴史）
7	精神医学総論（精神障害における症状）
8	精神医学総論（精神障害における症状）
9	高次脳機能障害（失語、失行、失認）
10	高次脳機能障害（前頭葉症候群、側頭葉症候群）
11	器質性精神障害（大脳皮質の変性疾患による認知症、脳血管性認知症）
12	器質性精神障害（大脳基底核の変性疾患、脳の感染症、東部外傷）
13	器質性精神障害（中毒、脳腫瘍、正常圧水頭症）
14	身体疾患に基づく精神障害（代謝障害、膠原病、内分泌疾患）
15	身体因精神病（てんかん）

【履修上の注意事項】

耳慣れない専門用語を受け入れるためにも、予習・復習が要求されます。特に授業後の毎回の復習を積み上げることが全体の理解に繋がります。

【評価方法】

期末試験の成績で判断する

【テキスト】

講義で使用したスライドと同じ内容のプリント資料を配布する。講義終了時にはこれが教科書となると思う。よって、教科書を指定することはせず参考文献のみを挙げる。

【参考文献】

「精神医学テキスト」上島国利・立山萬里/編集、南江堂、「標準精神医学」野村総一郎他/編集、医学書院

精神医学Ⅱ

担当教員 肥後 成美

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

脳の構造と局在化している機能を勉強することで、個々の部位の総合作用として発露している我々の行動・思考の状態をより深く把握できる。それが精神障害の病像を適格に理解し、医療者としての治療、介護への正確な対応へと繋がると考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神作用物質による精神および行動の障害（アルコール）
2	精神作用物質による精神および行動の障害（モルヒネ、アンフェタミン等）
3	統合失調症（概念、疫学）
4	統合失調症（病因、病型）
5	統合失調症（治療、鑑別診断、統合失調症近縁の疾患）
6	気分障害（単極性気分障害）
7	気分障害（双極性気分障害）
8	神経症性障害（治療、病型：恐怖症性不安障害、強迫性障害）
9	神経症性障害（病型：重度ストレス反応および適応障害、解離性障害、神経衰弱など）
10	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害）
11	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（睡眠障害など）
12	成人の人格および行動の障害（特定の人格障害）
13	成人の人格および行動の障害（習慣および衝動の障害、性同一性障害など）
14	高齢者と精神医学
15	精神保健と法律

【履修上の注意事項】

耳慣れない専門用語を受け入れるためにも、授業毎の予習・復習が必要である。

【評価方法】

期末試験の成績で判断する。

【テキスト】

プリント資料を配布する

【参考文献】

「精神医学テキスト」上島国利・立山萬里/編集、南江堂、「標準精神医学」野村総一郎他/編集、医学書院

精神科リハビリテーション学Ⅰ

担当教員 平川 泰士

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 精神科リハビリテーションの概念と構成について理解する。
2. 精神科リハビリテーションの歴史、プロセス、体系について理解する。
3. 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割と方法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	リハビリテーションの概念 障害の構造論
3	精神保健医療福祉領域の支援対象者
4	精神科リハビリテーションの理念、基本原則
5	精神科リハビリテーションのアプローチ
6	精神科リハビリテーションのプロセス
7	精神障害者支援の実践モデル
8	わが国の精神科保健福祉の歴史とパラダイムシフト
9	わが国の地域精神保健福祉活動の歴史と経過
10	専門技法について（社会生活技能訓練）
11	専門技法について（家族教育と家族支援）
12	専門技法について（エビデンスに基づく実践：EBP）
13	作業療法, レクリエーション療法など
14	地域活動支援と精神保健福祉士の役割
15	諸外国の精神医療保健福祉

【履修上の注意事項】

「精神保健福祉士」国家試験受験科目である。各回の講義テーマについて事前にテキストに目を通し配布されたプリント内容をテキストで確認する、基礎的な用語を確認する、指定された課題に取り組むなど予習し、理解できなかった点を確認し復習をおこなうこと。再試は実施しない。

【評価方法】

試験70%、授業中のレポート等30%によって総合評価を行う。

【テキスト】

「日本精神保健福祉士養成校協会」編、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ」（「新・精神保健福祉士養成講座4」）、中央法規出版株式会社

【参考文献】

講義時に、指示する。

精神科リハビリテーション学Ⅱ

担当教員 平川 泰士

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解できる。精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術及び活用法について理解できる。地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワークの実際について理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	医療機関における精神科リハビリテーションの展開①（精神専門療法・家族教育プログラム）
2	医療機関における精神科リハビリテーションの展開②（精神科デイケア・SST）
3	医療機関における精神科リハビリテーションの展開③（医療機関のアウトリーチ）
4	医療機関における精神科リハビリテーションの展開④（チーム医療・多職種連携と協働）
5	精神障害者支援の実践モデル①（意味と内容）
6	精神障害者支援の実践モデル②（治療モデル・生活モデル）
7	精神障害者支援の実践モデル③（ストレングスモデルの理論的背景）
8	精神障害者支援の実践モデル④（ストレングスモデルをベースとしたアセスメント）
9	相談援助の過程及び対象との援助関係①（概論・ケース発見、インテーク、アセスメント）
10	相談援助の過程及び対象との援助関係②（プランニング・モニタリング）
11	相談援助の過程及び対象との援助関係③（エバリュエーション・終結、アフターケア）
12	相談援助活動のための面接技術①（面接の種類と原則）
13	相談援助活動のための面接技術②（面接技法）
14	スーパービジョンとコンサルテーション①（スーパービジョン）
15	スーパービジョンとコンサルテーション②（コンサルテーション）

【履修上の注意事項】

本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目である。講義とあわせ、発表、グループワークなどの共同作業、課題レポートをもうけるため、積極的に参加することを求めます。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】

1. 理解度確認による試験評価（60%）
 2. 講義時指定の課題・レポート（40%）
- 再試は実施しない。

【テキスト】

日本精神保健福祉士養成校教会編『新・精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』中央法規

【参考文献】

随時、講義時に指示する。

精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について説明できるようになる。
- 2 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的考え方と支援体制の実際について基礎的知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	相談援助活動の展開①内容と方法
2	相談援助活動の展開②個別支援の実際と事例分析
3	相談援助活動の展開③集団を活用した支援の実際と事例分析
4	家族調整支援の実際①精神障害者と家族の関係
5	家族調整支援の実際②家族支援の方法
6	地域移行の対象支援体制
7	地域移行における精神保健福祉士の役割と多職種連携
8	地域移行・地域定着支援の取り組み
9	地域移行にかかわる機関と組織
10	事例による地域移行支援の検討
11	地域を基盤にした相談援助の主体と対象①精神障害者を巻き込む社会的状況
12	地域を基盤にした相談援助の主体と対象②地域相談援助の主体
13	地域を基盤にした相談援助の主体と対象③地域相談援助の対象
14	地域を基盤にした相談援助の主体と対象④地域相談援助の体制
15	地域を基盤にした相談援助の主体と対象⑤事例による地域を基盤とした相談援助活動の検討

【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

【評価方法】

- 1 試験（期末レポート）による評価（70%）
- 2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（第2版）』中央法規

【参考文献】

C・A・ラップ, R・J・ゴスチャ著, 田中英樹監訳『ストレングスマodel 精神障害者のためのケースマネジメント 第3版』金剛出版

精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む）の実際について基礎的知識を備える。
- 2 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方①地域ネットワーク
2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方②アウトリーチ
3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方③生活支援事業と訪問援助
4	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方④セルフヘルプグループ・家族会
5	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方⑤精神保健福祉ボランティアの育成と活用
6	精神障害者のケアマネジメント①ケアマネジメントの原則
7	精神障害者のケアマネジメント②ケアマネジメントの意義と方法
8	精神障害者のケアマネジメント③ケアマネジメントの展開過程
9	精神障害者のケアマネジメント④チームケアとチームワーク
10	精神障害者のケアマネジメント⑤事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
11	地域を基盤にした支援とネットワーキング①その概念と基本的性格
12	地域を基盤にした支援とネットワーキング②地域アセスメント・BSC・SWOT分析
13	地域を基盤にした支援とネットワーキング③地域を基盤にした支援の具体的展開
14	地域を基盤にした支援とネットワーキング④事例による地域を基盤にした支援の検討
15	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開

【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

【評価方法】

- 1 試験（期末レポート）による評価（70%）
- 2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（第2版）』中央法規

【参考文献】

C・A・ラップ, R・J・ゴスチャ著, 田中英樹監訳『ストレングスマodel 精神障害者のためのケースマネジメント 第2版』金剛出版

精神保健福祉援助演習 I

担当教員 茶屋道 拓哉、平川 泰士、福崎 千鶴

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について理解を深める。②精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について体系的な概念や理論をもとに、専門的援助技術として実践的に展開できる能力を身につける。③総合的包括的な相談援助・保健医療福祉のチームアプローチなどを具体的事例をもとに理解する。④ロールプレイを通じた個別・集団での指導をもとに、具体的場面を想定した対応力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	事例の理解（退院支援、地域移行、地域生活継続）茶屋道、平川、福崎
2	包括的援助の実践的習得（退院支援、地域移行に関する相支援過程の実技指導）茶屋道
3	包括的援助の実践的習得（地域生活継続に関する相支援過程の実技指導）平川
4	事例の理解（社会的排除、貧困、低所得、ホームレス）平川
5	包括的援助の実践的習得（社会的排除に関する相支援過程の実技指導）福崎
6	包括的援助の実践的習得（貧困等に関する相支援過程の実技指導）平川
7	事例の理解（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等、ピアサポート）平川
8	包括的援助の実践的習得（自殺に関する相支援過程の実技指導）平川
9	包括的援助の実践的習得（ひきこもり等に関する相支援過程の実技指導）福崎
10	事例の理解（教育、就労（雇用））福崎
11	包括的援助の実践的習得（就労（雇用）に関する相支援過程の実技指導）平川
12	包括的援助の実践的習得（教育に関する相支援過程の実技指導）茶屋道、平川、福崎
13	事例の理解（精神科リハビリテーション・その他の危機状態）福崎
14	包括的援助の実践的習得（精神科リハビリテーション等に関する相支援過程の実技指導）福崎
15	自己の援助関係構築方法に対する理解と自己覚知 福崎

【履修上の注意事項】

- 1 本科目と同時に履修する精神保健福祉援助実習・実習指導との関係から、常に臨床場面を想定し、専門職としてのロールプレイ・演習中の発言・事前学習準備など主体的参加を求める。
- 2 必要に応じて用いられるケースや学生同士の自己開示における専門職業人としての守秘義務の徹底。
- 3 ロールプレイや事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

ロールプレイ（個別指導）における評価：30%
 ロールプレイ（集団指導）における評価：30%
 授業中のレスポンスやチームとして取り組む姿勢：40%

【テキスト】

特に使用しない。
 必要な資料を適宜配布する。

【参考文献】

長崎和則ほか著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研
 田中英樹ほか編『ソーシャルワーク演習のための88事例』中央法規

精神保健福祉援助演習Ⅱ

担当教員 茶屋道 拓哉、平川 泰士、福崎 千鶴

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について理解を深める。②精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について体系的な概念や理論をもとに、専門的援助技術として実践的に展開できる能力を身につける。③総合的包括的な相談援助・保健医療福祉のチームアプローチなどを具体的事例をもとに理解する。④ロールプレイを通じた個別・集団での指導をもとに、具体的場面を想定した専門職としての対応力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	包括的援助の実践的習得（精神科リハビリテーション等に関する相支援過程の実技指導）
2	実習体験の振り返り（集団）①精神保健福祉士の活動内容と理論との結びつけ
3	実習体験の振り返り（集団）②精神保健福祉相談援助事例と理論との結びつけ
4	実習体験の振り返り（集団）③クライアントとの関係における困難場面の共有化と体系的理解
5	実習体験の振り返り（集団）④クライアントとの関係における困難場面の再構成とロールプレイ
6	実習体験の振り返り（集団）⑤各専門職との関係における困難場面の共有化と体系的理解
7	実習体験の振り返り（集団）⑥各専門職との関係における困難場面の再構成とロールプレイ
8	実習体験の振り返り（個別）①精神保健福祉士の活動内容と理論との結びつけ
9	実習体験の振り返り（個別）②精神保健福祉相談援助事例と理論との結びつけ
10	実習体験の振り返り（個別）③クライアントとの関係における困難場面の共有化と体系的理解
11	実習体験の振り返り（個別）④クライアントとの関係における困難場面の再構成とロールプレイ
12	実習体験の振り返り（個別）⑤各専門職との関係における困難場面の共有化と体系的理解
13	実習体験の振り返り（個別）⑥各専門職との関係における困難場面の再構成とロールプレイ
14	課題の発見・分析・解決（個別）
15	自己の援助関係構築方法に対する理解と自己覚知

【履修上の注意事項】

- 1 精神保健福祉援助実習終了後に実施する本科目においては、実習において得られた臨床における実践知識・技術を振り返りながら進める。よって、ロールプレイ・演習中の発言・事前学習準備など主体的参加を求める。
- 2 必要に応じて用いられるケースや学生同士の自己開示における専門職業人としての守秘義務の徹底。
- 3 ロールプレイや事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

事例研究（個別指導）における評価：30%
 事例研究（集団指導）における評価：30%
 授業中のレスポンスやチームとして取り組む姿勢：40%

【テキスト】

特に使用しない。
 必要な資料を適宜配布する。

【参考文献】

日本社会福祉実践理論学会監修『事例研究・教育法—理論と実践の向上を目指して—』川島書店

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ

担当教員 茶屋道 拓哉、平川 泰士、福崎 千鶴

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①精神保健福祉援助実習の意義について理解した上での態度を身につける。②精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できるようになる。③個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。⑤具体的な体験や援助活動を、価値や倫理に基づき、専門的知識及び技術として習得していく。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	個別/集団指導の意義（全員）	16	権利擁護の視点による実習指導（全員）
2	精神疾患・障害の現状と基本的理解（福崎）	17	障害者総合支援法の実際と実習指導（全員）
3	精神科専門用語の基本的理解（平川）	18	地域の社会資源の実際と実習指導（全員）
4	精神保健福祉法の現状と基本的理解（福崎）	19	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
5	社会保障制度の現状と基本的理解（平川）	20	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
6	実習先、知識、技術の理解と実習計画（全員）	21	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
7	職業倫理、法的責務、守秘義務の理解（全員）	22	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
8	精神科病院の理解（全員）	23	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
9	巡回指導・スーパービジョン①（全員）	24	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
10	帰学指導・スーパービジョン①（全員）	25	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
11	帰学指導・スーパービジョン②（全員）	26	三者（実習生、教員、指導者）協議会（全員）
12	巡回指導・スーパービジョン②（全員）	27	実習指導者を含めた実習報告会（全員）
13	帰学指導・スーパービジョン③（全員）	28	実習指導者を含めた実習報告会（全員）
14	帰学指導・スーパービジョン④（全員）	29	実習指導者を含めた実習報告会（全員）
15	帰学指導・スーパービジョン⑤（全員）	30	実習指導者を含めた実習報告会（全員）

【履修上の注意事項】

- 1 本科目と同時に履修する精神保健福祉援助実習との関係から、常に臨床場面を想定し、専門職としてのロールプレイ・演習・事例検討中の発言・事前学習準備など主体的参加を求める。
- 2 必要に応じて用いられるケースや学生同士の自己開示における専門職業人としての守秘義務の徹底。
- 3 実習や事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

実習報告書・事例検討報告書等による評価（60%）
スーパービジョン時の応答や態度、チームとして取り組む姿勢（40%）

【テキスト】

特に指定しない（必要に応じて随時資料配布）

【参考文献】

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 9 精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規

精神保健福祉援助実習指導Ⅱ

担当教員 茶屋道 拓哉、平川 泰士、福崎 千鶴

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①精神保健福祉援助実習の意義について理解した上での態度を身につける。②精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できるようになる。③個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。⑤具体的な体験や援助活動を、価値や倫理に基づき、専門的知識及び技術として習得していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健医療福祉の現状に関する理解①障害者総合支援法における給付等の理解（平川）
2	精神保健医療福祉の現状に関する理解①障害者総合支援法における地域生活支援事業の理解（平川）
3	実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解（平川）
4	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解（平川）
5	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）（福崎）
6	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（福崎）
7	実習先の理解と実習計画の作成（福崎）
8	地域における障害福祉サービス事業所の理解（全員）
9	地域における障害福祉サービス事業所の理解（全員）
10	地域における障害福祉サービス事業所の理解（全員）
11	実習中における巡回指導・スーパービジョン（全員）
12	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成（集団）平川、福崎
13	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成（個別）平川、福崎
14	実習の評価全体総括会（実習指導者を含めた実習報告会の実施）①全体報告 平川、福崎
15	実習の評価全体総括会（実習指導者を含めた実習報告会の実施）②個別指導 平川、福崎

【履修上の注意事項】

- 1 本科目と同時に履修する精神保健福祉援助実習との関係から、常に臨床場面を想定し、専門職としてのロールプレイ・演習・事例検討中の発言・事前学習準備など主体的参加を求める。
- 2 必要に応じて用いられるケースや学生同士の自己開示における専門職業人としての守秘義務の徹底。
- 3 実習や事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

実習報告書等による評価（60%）

スーパービジョン時の応答や態度、チームとして取り組む姿勢（40%）

【テキスト】

特に指定しない（必要に応じて随時資料配布）

【参考文献】

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 9 精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規

精神保健福祉援助実習 I

担当教員 茶屋道 拓哉、平川 泰士、福崎 千鶴

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 5

準備事項

備考

【授業のねらい】

①精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。②精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に判断できる能力を習得する。④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及び具体的内容を実践的に理解する。

【授業の展開計画】

- 精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。
 - 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助
 - 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助
 - 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助
- 学生は、精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。
 - クライアントやその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
 - クライアントの理解とその需要の把握及び支援計画の作成
 - クライアントやその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成
 - クライアントやその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価
 - 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
 - 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
 - 精神科病院等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
 - 精神科病院等の経営やサービスの管理運営の実際
 - 精神科病院が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
- 精神保健福祉援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。

【履修上の注意事項】

- 本科目は精神保健福祉援助実習指導や精神保健福祉援助演習と連動して行われる。専門職として必要な知識や技術について事前に総合的振り返り学習を行ったうえで実習に臨むこと。
- 専門職団体である日本精神保健福祉士協会の倫理綱領を遵守して実習を行うこと。
- 実習や事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

実習指導者による評価（30%）
 実習報告書・事例検討報告書等による評価（30%）
 専門職業人としての成熟度（40%）

【テキスト】

なし。

【参考文献】

随時紹介する。

精神保健福祉援助実習Ⅱ

担当教員 茶屋道 拓哉、平川 泰士、福崎 千鶴

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

①精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。②精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に判断できる能力を習得する。④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及び具体的内容を実践的に理解する。

【授業の展開計画】

1. 地域における障害福祉サービス事業所等において実習を行う学生は、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。
 - ①利用者の地域における日常生活の理解
 - ②障害福祉サービス事業所等利用における利用者及びその家族への相談援助
 - ③多職種や障害福祉サービス事業所外の関係機関との連携を通じた援助
2. 学生は、障害福祉サービス事業所等における実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。
 - ①クライアントやその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
 - ②クライアントの理解とその需要の把握及び支援計画の作成
 - ③クライアントやその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成
 - ④クライアントやその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価
 - ⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
 - ⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
 - ⑦障害福祉サービス事業所等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
 - ⑧障害福祉サービス事業所等の経営やサービスの管理運営の実際
 - ⑨障害福祉サービス事業所が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
3. 精神保健福祉援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。

【履修上の注意事項】

1. 本科目は精神保健福祉援助実習指導や精神保健福祉援助演習と連動して行われる。専門職として必要な知識や技術について事前に総合的振り返り学習を行ったうえで実習に臨むこと。
2. 専門職団体である日本精神保健福祉士協会の倫理綱領を遵守して実習を行うこと。
3. 実習や事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

実習指導者による評価（30%）
実習報告書・事例検討報告書等による評価（30%）
専門職業人としての成熟度（40%）

【テキスト】

なし。

【参考文献】

随時紹介する。

発達と加齢現象

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

一般心理学の基礎理論・技術をベースに、高齢者への心理的援助のあり方を理解できること。
特に発達心理学・認知心理学及び老年学（ジェロントロジー）の視点を入れながら高齢者の理解や加齢現象に伴う問題及び心理的問題に対する対応方法について理解できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生涯発達心理学とエイジング心理学
2	ジェロントロジーと生涯発達
3	発達段階と課題
4	高齢者を含む心理学的人間理解
5	高齢期のサクセスフル・エイジングと生きがい
6	高齢者の健康（体力と機能）
7	感覚・知覚のエイジング
8	記憶・学習のエイジング
9	認知・知能のエイジング
10	性格・感情のエイジング
11	家族との関係
12	社会・仕事との関係
13	心理的問題への理解
14	認知症への理解
15	まとめ：生涯発達の観点から加齢を理解し、高齢者の心理や機能の変化に関する知識を総括する

【履修上の注意事項】

主に高齢者の加齢現象について、新聞や文献等で事前に学習しておくこと。
さらに生涯発達の観点から、高齢期の位置づけなどについて復習すること。

【評価方法】

単位認定試験：100点満点

【テキスト】

未定

【参考文献】

適宜、指示していく。

精神保健福祉援助技術総論

担当教員 平川 泰士

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- ・精神保健福祉士が行う相談援助の対象、業務内容、相談援助の概要について理解する。
- ・精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲、役割について理解する。
- ・精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
- ・精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

【授業の展開計画】

1. 精神保健福祉士が行う相談援助活動の概要
2. 精神保健福祉領域（保健、医療、福祉等）における援助の対象についての理解
3. 精神保健福祉士が行う相談援助の基本的考え方（対象、目的、倫理、価値、意義、内容、原則）
4. 相談援助に係わる医療機関における専門職（精神科病院、精神科診療所等）の概念と範囲
5. 相談援助に係わる福祉行政・関連行政機関等（保健所等）における専門職の概念と範囲
6. 相談援助に係わる司法領域（保護観察所の社会復帰調整官等）における専門職の概念と範囲
7. 相談援助に係わる就労支援領域（労働行政機関等の障害者職業カウンセラー、職場適応援助者等）における専門職の概念と範囲
8. 相談援助に係わる民間の福祉施設・組織（福祉サービス等）における専門職の概念と範囲
9. 相談援助に係わるにおける専門職の概念と範囲
10. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲
11. 精神障害者の自己決定、意思決定能力と法的問題
12. 精神障害者の人権擁護、権利擁護システムにおける精神保健福祉士の役割
13. 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助の意義と内容
14. 精神保健福祉活動における多職種連携（チームアプローチ、アウトリーチ）の意義と内容
15. 本講義の振り返りとまとめ

【履修上の注意事項】

本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目である。

講義とあわせ、発表、グループワークなどの共同作業、課題レポートをもうけるため、積極的に参加することを求めます。また、指定された課題などについて、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習

復習を求めます。

【評価方法】

講義時の指定の課題・レポート（30%）、期末試験（70%）にて評価する。

再試は実施しない。

【テキスト】

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー精神保健福祉相談援助の基盤 [基礎][専門]』、へるす出版

【参考文献】

講義時適時指定する